

山行報告



明神山行

北村

日時：10月17日(日) 参加者：22名

参加者：Aグループ L山本 SL待場 井上 大谷 金島 北村 武田

清水 開 平山 増田 森川

Bグループ L上田 SL竹内 足立(美) 岡本 狩集 切貫 中嶋

蛭田 巻藁 渡邊(俊)

行動記録：夢やかた駐車場 9:30 出発 - 9:45 観音岩 10:15 - くじら岩 10:35 - 合掌岩 10:45 -
がまん坂 - 地蔵岳 11:10 - 明神山山頂 11:45 着・昼食・12:30 夢展望台 13:00 -
西の丸 13:25 - 大黒岩 13:45 - 岩屋池 14:00 - 夢やかた駐車場着 14:30

“明神山”・・・何とも響きのある名前。“明神”すなわち“神”の敬称である。

そんなに高い山ではないが、クッキリとせり上がった大明神(主峰)と小明神とが相並ぶ品のある山容に心打たれる。岩屋池から望むその姿には神秘さと静寂を感じる。



さて、当日5台の車に分乗した22名のパーティは山本・上田各リーダーのもと2班に分かれて、夢やかたを起点にCコースの登山開始。木の階段を登りきると厳しい急峻な尾根に出会う。6合目から7合目にかけての“ガマン坂”あれば、地蔵岳をこえたあたり(?)の“八丁坂”(正しく胸突き八丁)“明神の鎖(ロープ?)場”があり、うまくネーミングしたものである。(笑)

正午前山頂に。明神山山遊会が建立した祠が祭られている。資料では山頂の削平地に祀

られていた“巖大明神”が中世になって麓の神元神社にうつされたとか。

山頂からのパノラマ観望が素晴らしい。七種連山・雪彦山が間近に望まれる。天気良好、ランドスケープ良好、食後のコーヒーまたよし。こんな至福のひと時を味わえるのは山登りならではと、つくづく思う。12時半、Aコースから下山開始。登りのCコースといい、下りも尾根沿いのルートで木漏れ日のなかの心地よさに、谷道のBコースとは違った良さを感じ・・・?と置いていたら大間違い!西の丸を過ぎたあたりから、達磨岩~マンモスの背(笑)~大黒岩と急な岩場の連続。気の抜けない下山ルートである。

今回の山行、総じて言えるのは岩場が多く急峻な上り・下りがあり、車の運転に例えるなら オーバーヒート・トルクダウンに気をつけ、こまめなシフトダウンが必要である。こう感じるのは私だけではないと思う。14時過ぎ全員、無事下山。変化に富んだ楽しい山行の一日であった。いつかまたA(C)コースからBコースへの山行にも期待したい。

まさに“夢前の播磨富士”近くにも素晴らしい山があるものだ。

(参考) 万歩計のデータ

歩いた距離 約12キロ(約19,000歩)

歩いた時間 約3時間40分

消費カロリー 約600Kcal



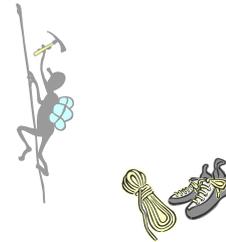
山神社岩例会

高橋

日時：10月17日(日)

参加者：L 松下 大瀬 高橋

講師：河尻 袴田 森本



今回、私にとって、2度目の山神社での岩例会に参加させて頂いた。ビレイの練習とロープセットについて学ぶことを目的とした。

ビレイについてはクライマーのひざが伸びたときロープを出す、クリップするときロープを出し、終われば張るなど、相手の動きを予測すればいいと教わったが、それが難しく間に合わない。また、ロープを出す、張るという動作自体も、もっとスムーズにできるように、練習することが必要だと感じた。



ロープセットについては、8の字結びや、

確保器への通し方など基本的なことを確認できた。次回は、自己確保や支点の作り方を覚えたい。

登りについては、手の力に頼らず、足で登ることを心掛けたが、疲れてくると、手で登ろうとしたり、岩に体を近づけすぎたりしてしまった。最後まで丁寧に登りたい。

今回も、講師の方々には色々とおアドバイスを頂き、充実した時を過ごす事ができたと思う。教えていただいたことを、早く自分のものとして、身に付けたい。

泉山〔女性委員会主催山行〕

日時：10月31日(日) 参加者：18名

参加者：Aグループ L 澤田 SL 尾内 足立 大谷 貝塚(陽) 瀬尾 高橋
原 開

Bグループ L 待場 SL 尾越 井上 大橋 岡本 狩集 塩 津
砂川(美) 武田

行動記録：山電高砂駅 6:59 JR 宝殿駅 7:10~7:16 中国道福崎 IC 7:45 勝央 SA 8:34 - 院庄 IC 8:55 道の駅奥津溪 9:19~9:30 笠菅峠 9:40 - 登山口 10:23 - 泉山山頂 11:58~12:38 - 登山口 13:58 - 笠菅峠 14:08~14:17 奥津溪 14:35~15:05 温泉(花美人の里) 15:10~16:05 院庄 IC 16:35 勝央 SA 16:45~17:00 中国道福崎 IC 17:52 JR 宝殿駅 18:20~18:23 山電高砂駅 18:38

雨具の花に揺れながらの下山

台風 14 号の余波で、昼から雨の予報。気は少し重いがこれも経験と思い暖かいお茶の用意。車窓から薄日が射した時は「ヤッター」と思うも束の間、また雲に包まれた空が“恨めしい”バスの中は歌声に変わり、ちょっぴり青春時代ヘスリップ。登山口ではシルバーコンパスで泉山を確認するが完全に記憶喪失？減点。出会う人もなく、貸し切り状態の登山道。曇った上空に青紫の lindou が妙に似合い「可愛い、可愛い」の言葉に誘われて笠菅峠山中へ。急に羽衣を広げたように雲が流れ、みる間に雲の中の住人となった頃、頂上に着きました。頂上では沢山の人で賑々しく、安堵感で急にお腹の虫も泣き出しました。食事後、ポツリと雨。早めの下山となり雨具の用意、エー？ザックカバーが無い。入れたはずなのに…。装備不備、減点。雨に打たれる私のザックにゴミ袋を掛けて下さった先輩に感謝。何の応用も、ゆとりもない自分に喝！ぬかるんだ道をただ滑らないようにと黙々と歩きました。あんなに開いていた lindou も雨で花を閉じていましたが、

武田

一列にならんだ色とりどりの雨具の花は華やかに揺れていました。



奥津溪散策も雄大な水の流れて出来た珍しい甌穴部を見ながら、次回は新緑に、紅葉にと一味違った景色を楽しみたいと思いました。花美人の里温泉では冷めた体を温め、一息も二息もつきながら、もう少しお湯につかっていたら美人になれたかしらん？と未練を残しながら帰途に着きました。いつものながらの楽しい山行。そして素敵な仲間たちに一杯感謝申し上げます。ありがとうございました。

泉山 & 奥津溪 ひとくち感想

紅葉の泉山に登ってきました。バスの中でも山の中でも楽しく賑やかに一日を過ごすことが出来ました。以下、行程に沿って川柳を詠んでみました。

- 『山めざし バスの中でも 山の歌』
- 『磁石手に 位置確認し 登ってゆく』
- 『lindou の 花見てなごむ 山の道』
- 『頂上で ランチ広げて 写真撮る』
- 『雨降って 紅葉濡れて 鮮やかに』
- 『登山の後 疲れを癒す 奥津の湯』

以上、つたない句でごめんなさい。女性委員会の皆様、お世話になり有難うございました。

瀬尾



石鎚山&金毘羅宮

日時：11月6日(土)～11月7日(日) 参加者：24名

参加者：A班 L上田 利昭 SL尾越 順子 荒尾 阿蘇 足立(美) 大谷 狩集 北村
切貫 佐々木 佐藤 荘所

B班 L須増 勇 SL松下 由美 砂川(延) 竹内 中嶋 長谷川 開 平山
巻藁 塩津 森川 渡邊(健)

行動記録：11月6日 高砂駅 6:00 宝殿駅 6:15～6:20 別所 PA6:40 - 6:45 瀬戸 PA7:30～
7:55 与島 PA8:40～9:00 石鎚山 SA10:25～10:35 砥部 11:25～11:55
久万高原ふるさと旅行村 12:30～13:05 面河溪 13:45～15:05 御来
光の滝展望所 15:40～15:50 国民宿舎石鎚 16:00
11月7日 国民宿舎石鎚 8:10 木の香 10:00～10:20 豊浜 SA11:30～11:45
琴平 12:25～15:10 吉備 SA16:15～16:30 宝殿駅 18:05～18:10
高砂駅 18:20

石鎚山 山行の思い出

早朝の6時15分「JR宝殿駅」集合の為、5時40分に自宅を出る。外はまだ暗くヒンヤリ冷たいが星が瞬いて、今日の山行を歓迎してくれている様だ。6時08分宝殿駅着。すでに大勢の仲間が集合している20分、予定通り今回の参加者24名を乗せてバスは出発。途中、焼きもの祭り中の「砥部町」に立ち寄り13時49分面河溪着。丁度色づいた赤、黄、緑の紅葉を楽しみながら、川沿いの遊歩道を大勢の人混みに混じり亀腹岩まで散策、石鎚スカイラインでは刻々と変貌する石鎚山の雄姿をバスの窓に嚙り付いて眺める。



荒尾

雲ひとつ無い真っ蒼の青空に、聳える石鎚山、場所によりそれぞれ姿を見せる石鎚山の雄姿、特に展望台から仰ぐ南尖峰は圧巻だ。天を突く姿は北アルプスの槍ヶ岳を彷彿させる。うっとり見惚れていると後ろの方から、万一明日の天気がどうなっても、悔いが残らない様にしっかりと目に焼き付けておくように……。リーダーの冗談交じりの言葉にこの時は、誰もが現実の事に成ろうとは夢にも思わなかった。皆はしっかり対峙、記念の写真もパチ、パチ、パチおかげで後々まで残る思い出が出来ました。

夕闇迫る頃、無事国民宿舎石鎚に着く。思いの他、部屋数も多く、今夜は宿泊客も多いようだ！

食事後は宴会をパスして、早目に就寝。途中夢の中で雨音を聞いた様な気がしたが、まさかと思いそのまま眠り続ける。早朝、雨音に起こされて外を見ると本格的な雨、あ～あ～昨日の夢は正夢だったか。この雨では登山は無理かなと思いつつも、天候の回復を願いながら出発の準備をする。

直に出発時間の延長連絡が入る。暫らくして今度は中止の連絡。この雨ではね。おまけにガスって視界もゼロ。納得、納得。石鎚山山行を讃岐の金比羅宮参拝と讃岐うどんを食べる会に変更して8時10分国民宿舎を出発。県道40号線はヘアピンカーブの連続。深い谷の、のり面には檜、ブナ、楓等の広葉樹が色づき赤、黄色に紅葉した木々がガスの合い間から垣間見える。丁度紅葉の真っ盛り雨に煙る紅葉、ある時は墨絵の様にまたある時は赤、黄、緑の美しいコントラストを描いた絵のように・・・雨足は強くなったり弱くなったりガスも濃くなったり、薄くなっ

たりしながら醜い物を包み込み、美しい景色だけを見せてくれる。バスの揺れに体を預けながら、まるで写真から飛び出したような風景に見惚れる。時折、遠くに紅葉した山肌が見え山頂も顔を覗かす。左は崖、下には吉野川の源流が流れる。この度は石鎚山には登れなかったが、面河溪と吉野川源流の紅葉、急遽変更の金比羅宮、讃岐うどんに満足しつつ、次のチャレンジを約束しながら雨の上だった四国路を後にする。

終始安全運転に勤められた砂川会長に感謝！



石鎚山 ひとくち感想

大谷 和代

4年前、石鎚山に登った時は、日帰りの強行軍だった。成就社コースで4ヶ所の鎖場を全部必死で上がった。今回は土小屋のコースなので、楽しみにしていたが、雨で登れなくなり、帰りに琴平さんに寄り、小雨降る中、奥の院まで行き、これからの山行の無事を祈願して来た。

編集委員会では、会報の表紙の写真や絵を募集しています。

山の写真、絵に限らず、これぞと思われる写真、自作の絵などをお寄せください。

写真は、画像で、絵は現物又は画像で、尾内までメールまたは郵送でお送りください。よろしくお願ひします。



三木さんが描かれたピラカンサスの絵です。